

政治資金残りあと

231,633円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

前回までの残高	60,312円
印刷代（ビラ印刷代）	20,058円
交通費（駐車場、高速代）	2,100円
雑費（ラベル代）	1,407円
通信費（携帯電話代）	5,114円
自己資金	-200,000円

市政を考える

月刊武松

発行日
00/1/5

第8号

たけまつ ただし

頒布責任者： **武松 忠**
武松政策研究会

（仮）城下町ホールへの進捗状況 12月定例会から

11月24日から12月21日まで、12月定例会が開催されました。

本会議では、地方分権一括法案に関連した議案と補正予算、その他委員会では、一般会計と特別会計の決算特別委員会及び、各常任委員会が開催されました。

常任委員会の陳情審査については、板橋の13階建てマンションの反対陳情、城内高校の単独校としての存続を求める陳情、老樺荘取り壊しの反対陳情がありました。

一般質問では、我々会員の加藤議員が、特例市について市の対応を聞いたところ、市長より、申請準備を進めているとの回答がありました。

私が行なった一般質問と市長答弁概略を以下に示します。

1（仮）城下町ホール建設を中心市街地活性化の核に （1）計画の進捗状況について

三の丸地区の公有地化を進めており、元県工芸技術センター（現更地）も今年度中に取得予定であるが、民有地の取得が遅れている。

（2）市民参加の方法と意識向上の手段について

市民会館整備検討委員会の報告書（平成4年）も参考にしながら市民参加の市民委員会を今年度中に設置する。

2 コンピュータ2000年問題について当日の体制と市民へのPR方法について

（1）対応状況の確認（各システムの対策状況、対策に要した経費、対策本部の決定事項）

（2）当日の体制

（1/1、1/3、1/10の対応について）

（3）PR方法

（広報、防災無線、その他の利用について）

2000年問題は、1/1には大きな問題は起こりませんでしたので市長答弁は省略しますが、市では平成9年と10年で約7000万円かけて対策を行ってきました。また対策本部を立ち上げ、全庁上げて対応したことから、大きな問題も発生することなく対応ができたのだと思います。

改めて担当者皆様に敬意を表します。

議会改革！

12月定例会より陳情審査を公開

議会改革として穂坂議長及び我々会が中心となって進めてきた改革内容を説明します。

1. 特別委員会の廃止

みかん減反跡地対策、少年院移転対策特別、駅前整備対策特別、防災（海岸整備）対策特別の4委員会を廃止し、関連の審議は4常任委員会に統合した。

2. 常任委員会協議会の廃止

協議会では、報告事項や陳情審査を非公開で行ってきたが、12月定例会より常任委員会（公開）で審議することとなった。

陳情審査は、陳情者の見学している前で審議をするため、行政、議員とも不用意な発言をすることが許されない。特に議員は、議員としての資質を問われるようになった。

3. 決算特別委員会の12月定例会中の実施

3月定例会で行っていた一般会計と特別会計の決算特別委員会を12月定例会に前倒しした。

従来は予算と決算を3月定例会で実施していたため、決算の反省点を予算に盛り込むことが困難だった。

私は、協議会の廃止が、大きな改革だと思います。議員自らも、十分な下調べをしておかないと幼稚な審議しかできないことになります。

これは、議員の意識改革につながります。

一般会計と特別会計

決算特別委員会で一般会計と特別会計の決算の審査をする訳ですが、ここで改めて、一般会計と特別会計の説明をします。

一般会計の歳入は、 税収、交付金、負担金、寄付、繰入金、繰越金、市債（借入金）の合計で、予算では、632億6325万円になります。

一般会計の歳出は、

- 1 議会費 議会の運営
- 2 総務費 災害対策、住民登録など
- 3 民生費 高齢者・障害者・児童の福祉、生活保護等
- 4 衛生費 休日急患診療、ごみ・し尿処理等
- 5 労働費 労働者の福祉向上等
- 6 農林水産業費 農林・水産業の振興対策等
- 7 商工費 商工業・観光の振興、観光施設の整備等
- 8 土木費 道路・公園・河川の整備等

9 消防費 消防施設の充実等

10 教育費 教育施設の整備、文化財の保護等

11 公債費 借入金の返済

12 諸支出金

13 予備費

歳出合計は、歳入合計と同額になります。

特別会計は、

競輪事業、天守閣事業、下水道事業、国民健康保険事業、国保診療施設事業、交通災害共済事業、公設卸売市場事業、老人保健医療事業、片浦簡易水道事業、公共用地先行取得事業、成田・桑原土地区画整理事業があります。

特別会計合計で、666億8099万円 の予算規模になっています。

中でも、競輪事業特別会計は、260億6952万円と特別会計合計の約40%を占めています。ピーク時には、40億円以上の一般会計への繰入金がありましたが、近年は10数億円に減少しています。

The Voice 今までに頂いたご意見から

審議会のあり方について

一連の審議会の傍聴に真面目に通ってみたけれども、課題の原案すら知らない委員もいました。

次に感じたことは、メンバーの6割方は、発言もなく毎回出席するだけです。その殆どの日程を2時間の説明を聞くだけに終始している実態を目の当たりにしました。

他の審議会に出席された方の話では、ある時、市から課長の名刺を持って訪れた方に、市の審議会の委員にと頼まれたが、「他県から移り住んだばかりの私にどうしてこの種の委員に？」と返事に戸惑いましたが、「出席だけしてくれればいいので・・・」と言われて引き受けました。その方曰く「審議会は形式だけなんです。殆ど説明を聞いているだけで済むし、ある有力者は時間内にちょっとだけ顔を出すだけ、またある人は、常習的に大幅な遅刻、真剣な雰囲気なんかではない、何のための審議会委員なのかかわからない。」と言っていました。このような状態の審議会が設置されていくのであれば、納税者として何も言えない切なさを感じてしまいます。

当節の行政レベルの判断力や問題意識・正義感等は、学識者や職歴、肩書きや資格等を全て取り払った所に生きた大衆の中にこそ存在しているように思えます。その辺のところを原点として、世の中を平等の土台から出発する意識の改革を議員の清々しい勇気をもって感じてくれるよう望んでいます。

行政、市民も含めて民主的でない慣習的な体質を点検して議論を深める場があればとも思います。

市内在住 50代 女性

私自身も、市民参加が一部形骸化していると感じています。しかし、無発言者の暗黙の了解というのが、日本的慣習と理解されている面もあります。米企業のように無発言者は、次から会議の案内が来ないようにできれば、税金の無駄遣いも減るかも知れません。少し時間を頂いて色々な事例を研究し、行政へ投げかけてみたいと思います。（武松）

武松政策研究会 勉強会のお知らせ

どなたでもお気軽に参加下さい。

テーマ：「県立高校改革について」

報告者：武松 忠

日時：1月15日（土） 18:00～20:00

場所：小田原市民会館 6階 第3多目的室

参加費：100円

出欠席の連絡は、不要です。当日、直接現地に来てください。

終了後、懇親会（実費3000円程度）を行います。

